

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 5 回(仮称)相模原市市民の森検討委員会				
事務局 (担当課)		経済部津久井経済観光課 電話042 - 780 - 1416 (直通)				
開催日時		平成25年9月20日(金)13時00分～15時30分				
開催場所		相模原市役所 相模湖総合事務所 1階1A会議室				
出席者	委員	7人(別紙のとおり)				
	その他	1人(別紙のとおり)				
	事務局	8人(津久井経済観光課長、他7人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会  2 議事 (1) 計画対象地の分析評価について (2) 市民の森の機能、性格、テーマについて (3) その他  3 閉会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員長の発言、 は委員の発言、 はオブザーバーの発言、 は事務局(業務受託者含む)の発言)

### 1 開会

津久井経済観光課長あいさつ

### 2 議事

午前中、現地視察を行った際の、各委員の感想や意見をもとに協議を始めた。

現地を視察したが、平坦地がもう少しあると思っていた。

地形のほかに、車でのアクセスや駐車場も課題である。

石老山で森林ビジョンの思想を全部実現しようとするとう無理があるので、対象地の性格に応じて展開可能な活動を考えていかなければいけない。

最初から完成型を整備するのではなく、展開可能な活動から順次導入し、徐々に整備を進めていけば良い。

管理施設の整備位置は、市有地ということが前提条件になっているのか。

現時点では市有地を条件として考えている。

検討の方針としては、ゾーニングをまず検討して、管理棟の場所はその後で考えたほうがよいのではないか。

従来のように行政主体で整備していくには、色々と制約があり難しいのではないか。市民の森なので、時間をかけながら市民主体で整備していき、行政はそれをサポートして、協力しながら段階的につくっていくべきと考える。石老山の傾斜は気になるが、地元の人達に理解してもらいながら進めることができれば、運営管理も柔軟に展開することも可能。従来の整備、運営管理の発想を変えて新しい展開を模索したい。

市民の森に対するイメージは各自異なると思うので、全員のイメージに合致するようにするのは難しい。

個人的には、施設を整備しなくても森、水、自然を積極的に残していくという姿勢でよいと思う。

市民主体で市民の森をつくっていく際には、指導者が必要となるので、指導者を育てる場所や事業も必要ではないか。

県でもインストラクターを養成しているので、指導者の派遣や育成の支援ということでは協力できる。

様々な活動や機能を全て最初からスタートさせるのは無理があると思う。まずはできるだけ費用をかけずに整備していく方がよいのではないだろうか。

必要な機能を全て満足するのは難しいという話があったが、まずは、仮に小さい施設から始めて、後々地元と協力して大きくしていくこともできる。

大きな管理棟を整備する方がいいのか、四阿にトイレがついた程度の簡易的な施設を複数整備する程度でいいのか。個人的には、市有地以外にも他の候補地がないかも含め、事務局で方針を整理しておいた方がよいと思う。

身近に森林や生態系を感じる機能は、これまでゾーン設定していないので、ふれあいゾーンのようなゾーンを設けても良いのではないかと。

また、各ゾーンに施設の名称が記載されているが、必ずしも、ここまで委員会の中で決める必要はなく、まずは、最低限必要な施設だけ検討しておけば問題ないと思う。

昨年度の委員会では6つのゾーニングが挙げられており、その中で企業の森ゾーンの可能性についても検討するはずだったが削除したのか。

企業の森ゾーンは、市民参加の森ゾーンの一部として記載している。

企業の森については、企業との連携を具体的に考えることができるのであれば、ゾーンとして設けておいた方がいいと思うが、実現性にまだまだ検討を要するのであれば、みんなで市民の森をつくるという意味では同様と思えるため、市民参加の森ゾーンに含んでしまってもよい。

若い人にたくさん参加してもらうとなると、学生や企業に参加を求めることも重要であり、積極的に進めた方がよい。

水源地域から供給された水を飲んでいる他の地域の人にも意識を持ってもらいたい。森林を守るということが、安心して水を飲むために必要であることを伝えていく必要がある。

市が限られた財源の中、どのように進めていけばよいかを今後議論していく必要がある。もちろん、ある程度の財源は確保する必要があるが、市民が主体でつくっていくとか、企業に参加してもらおうという手段は重要である。水をよく使う企業などには、参加して頂ける可能性はあるのではないだろうか。

傾斜に関する資料があると全体が把握しやすい。

ゾーニングを検討する際に、制約となる法的規制について整理してもらいたい。

建築許可に対する規制等も整理しておいて頂きたい。建築許可、確認申請をとる際に建築面積等で制約はないのかなど把握しておく必要がある。

車両でのアクセスについては、どのように考えているか。

交通アクセスについては、重要な要素であると考えている。現状では、大型車両がアクセスできないので、小中学生の学習活動の一環で利用する際には、大型バスでの移動が想定されるので受入方法を考えなければならない。既存施設の活用も含めて、今後検討していきたい。

相模湖もあるので、車だけでなく船の活用も考えられる。

立地条件としては、傾斜に関するデータ整理、法規制の整理のほか、市民団体のヒアリングを通じた性格の整理が必要。ゾーニングについては、新たなゾーンとしてふれあいゾーンや企業連携ゾーンを設けてもいいのではということ、また、市有林を中心に整備していくのは難しいのではないかという意見があった。

本日頂いた意見をもとに、市としての方向性を検討し、次回検討委員会の資料で提示したい。

以 上

## 第5回(仮称)相模原市市民の森検討委員出欠席名簿

### 【検討委員会委員】

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	下村 彰男	東京大学 大学院 農学生命科学研究科 教授	委員長	出席
2	坂本 重光	津久井郡森林組合 専務理事	副委員長	出席
3	小野沢 良雄	津久井地区自治会連合会 会長		出席
4	平林 清	光が丘地区自治会連合会 会長		出席
5	金子 匡甫	東林地区自治会連合会 会長		欠席
6	吉山 茂利	相模原市観光協会 理事		出席
7	滝口 清吾	公募委員		出席
8	畑 久男	公募委員		出席

### 【オブザーバー】

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	石井 洋三	神奈川県 水源の森林部 部長		出席